

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2023年6月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2023年6月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:279、回収数:106、回収率:38.0%、回収期間:2023年6月20日～6月30日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

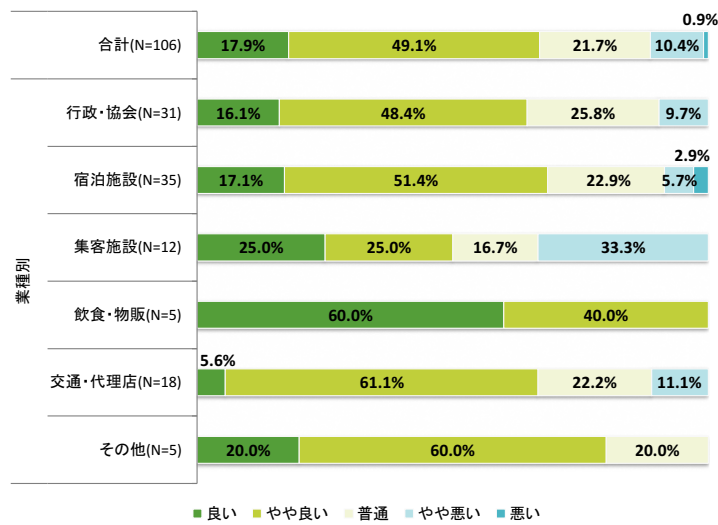
1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (4月～6月)	見通しDI (7月～9月)
合計(N=106)	68.2	64.6
行政・協会(N=31)	67.7	71.8
宿泊施設(N=35)	68.6	52.9
集客施設(N=12)	60.4	64.6
飲食・物販(N=5)	90.0	68.8
交通・代理店(N=18)	65.3	70.8
その他(N=5)	75.0	75.0

4～6月の熊本県の現状判断DIは68.2となり、前期(64.8)から更に上昇した。今期も全ての業種でDIは50を上回り、総じて好況が続いていると言える。コメントからは、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行による旅行マインド上昇のほか、団体旅行・インバウンドの回復、イベントの再開や規模拡大をポジティブに捉えているものが多かった。ただし、一部には物価高騰や人手不足による影響が指摘されていた。

見通しDIは64.6となった。前回(70.4)からは低下しているものの、基準となる50を大きく上回り、回復基調の継続を見込む声が多かった。今後「良くなる」「やや良くなる」要因として、インバウンドの更なる回復や夏のイベント再開を挙げるコメントが多かった。一方で、全国旅行支援が終了となることから、宿泊施設では「やや悪くなる」「悪くなる」の回答が4分の1以上を占めた。

2. 4～6月期の動向、景況感

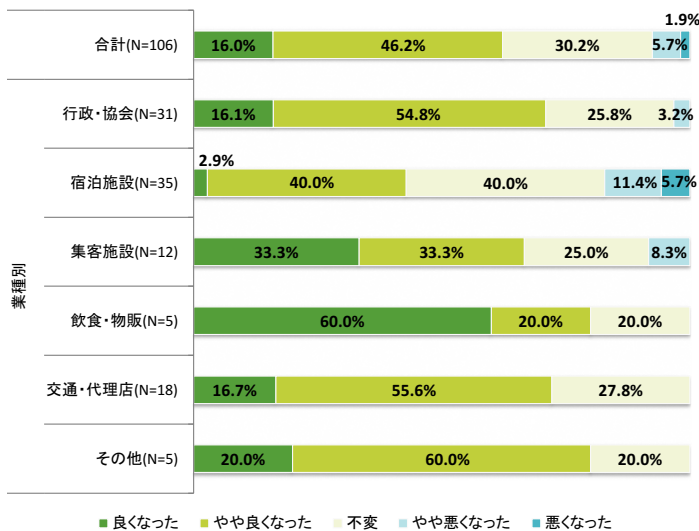


4～6月の景況感は、全体では「良い」「やや良い」の合計が67.0%、「悪い」「やや悪い」は11.3%となった。全ての業種で「良い」「やや良い」の合計が50%以上を占めた。

【コメントの抜粋】

- 良い
県外からのお客様、団体旅行が増えたため(飲食・物販)
インバウンド観光客の回復が見られる(行政・協会)
- やや良い
来客が昨年以前よりふえた。コロナ前には届かない程度(集客施設)
5月から婚礼、総会関係など地元宴会が増えてきたのと全国割により宿泊個人客が増加し宿泊単価がアップしたため(宿泊施設)
- 普通
ビジネス利用は戻ってきているが、観光需要がまだ戻ってきていないので休日の予約の入り方があまりよくない(宿泊施設)
- やや悪い
ホテルは工事需要で満室が続いている。道の駅の立ち寄り客はコロナ禍以前と同水準。飲食店は賑わいを取り戻している反面、タクシー・代行運転の不足から、2次会以降の客足が激減している(行政・協会)
- やや悪い
令和2年7月豪雨災害の影響がまだに残っている(行政・協会)

3. 1～3月期に比べた4～6月の動向、景況感

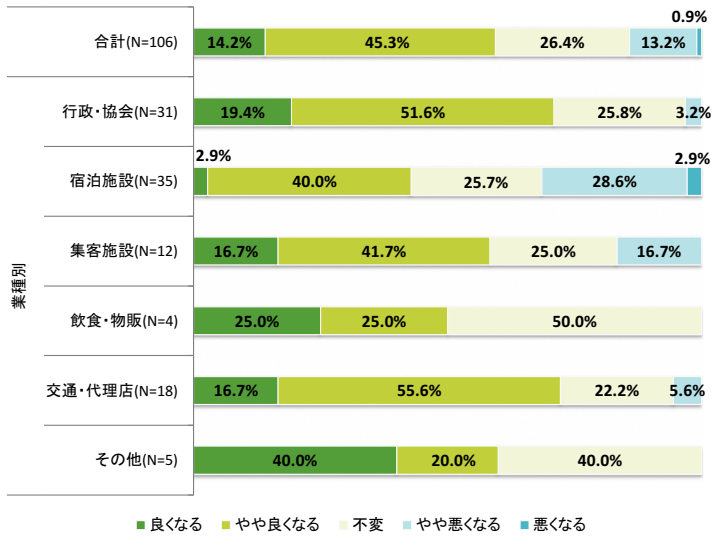


1～3月期に比べた4～6月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が62.2%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体で7.6%となった。

【コメントの抜粋】

- 良くなった
医学系の学会について、オンライン、ハイブリッドだったものが、ほとんど現地開催に変更になってきている(交通・代理店)
観光目的の入国規制緩和により、アジア圏を中心とした訪日外国人観光客(インバウンド)が増加した為(飲食・物販)
- やや良くなった
新型コロナウイルス感染症の5類への引き下げにより、町や民間団体などのイベントが増えてきた(行政・協会)
コロナの時には少なかった団体が増えてきたこと 香港など福岡便が以前よりも増えたこと(宿泊施設)
- 不変
売上は良くなったが物価高で仕入れや光熱費などが高い(宿泊施設)
入場料金の値上げ等で、売り上げ確保はしているものの、お客様の消費額が物価の高騰分についていけない。また、天候不順もあり、計画入場者数に及んでいない(集客施設)
- やや悪くなった
3月までの市の宿泊助成も終了し、旅館の予約率も低下傾向にある(宿泊施設)

4. 今後、9月までの業況の見通し



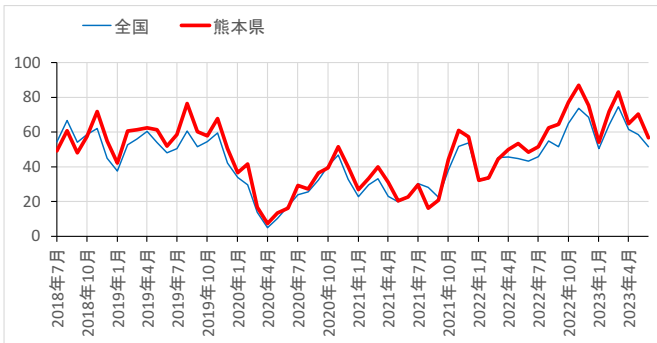
今後9月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は59.5%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は14.1%となっている。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
コロナウイルスの5類移行で旅行客の数がまだまだ増えてくる(インバウンドも含めて)(飲食・物販)
- やや良くなる
2023年夏はインフラ復旧(南阿蘇鉄道)が予定されており、PR効果が期待される(行政・協会)
雨季時の減少は否めないが、夏季休暇期間の集客は見込める。台風の影響が心配(宿泊施設)
くまもと行くモン旅割の開始(宿泊施設)
- 不変
7月以降の旅行支援事業が早期に決まらず、先々の受注ができていない(交通・代理店)
需要はあるかもしれないが、人手不足で対応できない部分もあるため(その他)
- やや悪くなる
全国旅行支援の終了に伴う国内旅行需要の低下(宿泊施設)
- 悪くなる
全国割がなくなり、自社企画の強化をしなければ、集客は見込めない可能性が高い(宿泊施設)

5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別



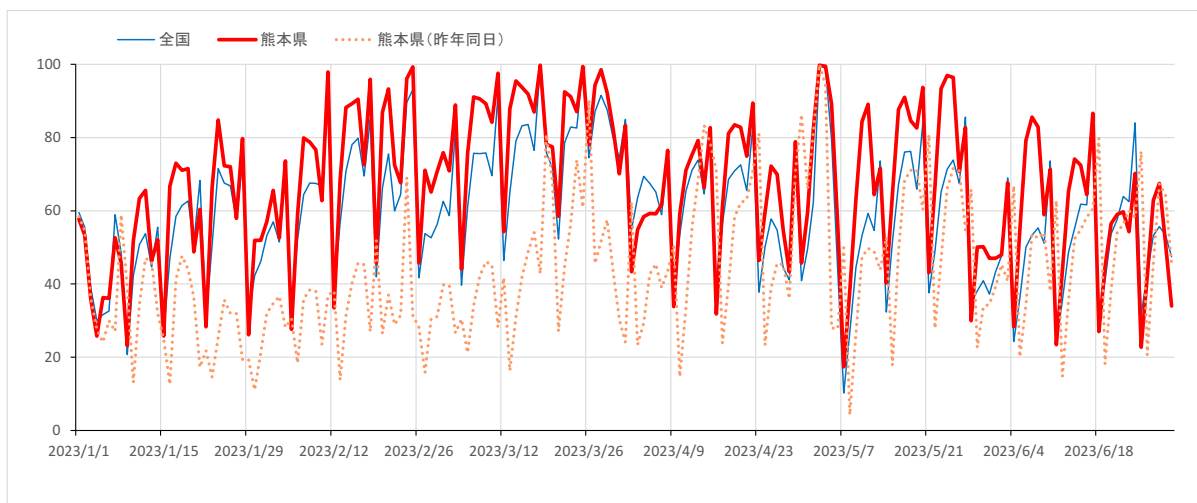
2023年4月における熊本県の宿泊稼働指数は64.9(前年差+14.9pt)、5月は70.4(同+17.0pt)、6月は56.7(同+8.3pt)となった。

指数が大きく上昇した3月から一転し、4月以降は全国旅行支援の縮小による観光宿泊需要の一巡から、指数は低下のトレンドが続いている。また、昨年が県民割の対象が地域ブロックに拡大した時期と重なることから、前年差のプラス幅が縮小傾向にある。

ただし、全国の稼働指数を上回る推移は継続している。

エリア別でみると、春の行楽シーズンを迎えた阿蘇地域やTSMC工場の建設が進む菊池地域では高水準での推移がみられた。一方で、八代地域、人吉・球磨地域では低下幅が比較的大きい。

②日次別



熊本県の宿泊稼働指数を日次別(原数値)でみると、4月上旬に低下したのち、4月下旬から5月下旬にかけて持ち直しの動きがみられた。ただし、6月以降は、平日・土日ともに指数が再び低下し、特に6月下旬は、ほぼ前年並みの推移となっている。なおゴールデンウィークについては、後半の5月3～5日は90以上を示したものの、前半は(4月29日～5月2日)は平日を含んだこともあり、指数が伸び悩んだ。地域別では、阿蘇地域や山鹿市、菊池地域などでゴールデンウィークの指数が高くなった。

全国と比較すると、4～5月はほとんどの日で熊本県が全国を上回っている一方、6月は土日を中心に全国を下回る日もみられた。

用語解説

※DI(デフレーション・インデックス)

同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。

具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\frac{\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}}{\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}} \right) * 100$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。